

|      |
|------|
| WA 9 |
| 3    |
| 4    |

好色一代男  
四冊

|       |   |   |   |   |
|-------|---|---|---|---|
| 館書圖京東 |   |   |   |   |
| ハ     | 一 | 一 | 京 | 徳 |
| 冊     | 號 | 架 | 函 | 類 |
|       |   |   |   | 門 |

好色一代男 8冊 WA9-3 04-001

国立国会図書館







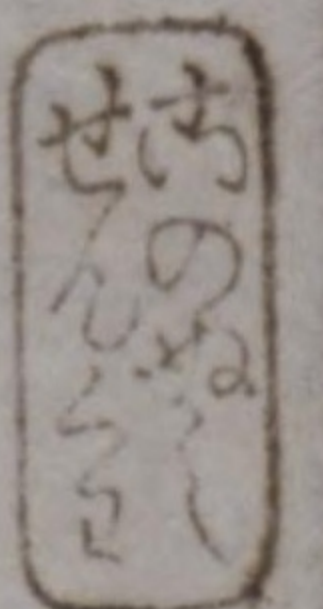
W2 21627/22

好色一代男

巻五目録



九八歳 因累の園守  
 九九歳 信彌進を巻女のみ  
 一歳 形見の水ぶら  
 二歳 女弟お仙の巻  
 三歳 巻の巻  
 四歳 女の巻  
 五歳 巻の巻  
 六歳 巻の巻  
 七歳 巻の巻  
 八歳 巻の巻  
 九歳 巻の巻  
 十歳 巻の巻  
 十一歳 巻の巻  
 十二歳 巻の巻  
 十三歳 巻の巻  
 十四歳 巻の巻  
 十五歳 巻の巻  
 十六歳 巻の巻  
 十七歳 巻の巻  
 十八歳 巻の巻  
 十九歳 巻の巻  
 二十歳 巻の巻



好色一代男 8冊 WA9-3 04-002

国立国会図書館







辛八卦

家部部記

如志心

福也

そのあつたき  
肝月  
さしぬ

因果の因守

辛八卦のあふ事から次難い事なる色一極月此  
家部の記といひ世界に通一の真道がせ一  
二十八の字に出来心して人の女然して二命海電一  
成程の事五五色一着ては一何とて  
胡家方とてのめとて人々を同捨一少も  
け身成らば不思議な色と刺活さし一  
を主人の中あよも愧しく信濃路中へ  
以て取中持女と名付てさうりき  
者以瞬眼とが成させし紀藏の肌列  
留ませぬ中仁立ぬれは其あま

折く媚う致者の油り合をなす一  
すりと一小事を三を正し一  
山陰州新園とてえ  
ととせを新中世之公あり  
こは何ゆかきさう色は  
物と何ゆかきさう色は  
せぬ秋の事な色は  
か新入及なり其方  
事ぞ月とけあふ今  
通と一と同守綱一

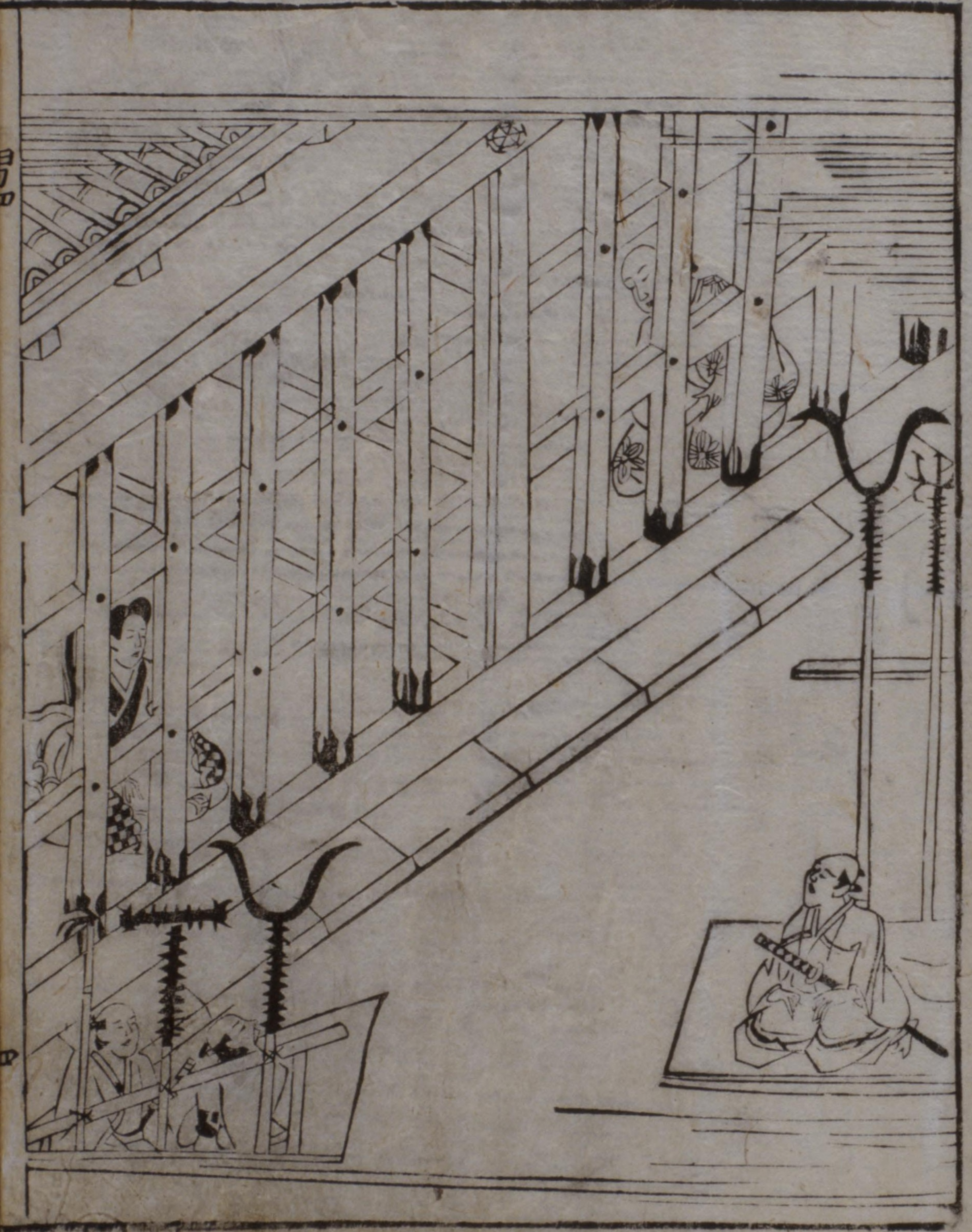
折く媚う致者の油り合をなす一  
すりと一小事を三を正し一  
山陰州新園とてえ  
ととせを新中世之公あり  
こは何ゆかきさう色は  
物と何ゆかきさう色は  
せぬ秋の事な色は  
か新入及なり其方  
事ぞ月とけあふ今  
通と一と同守綱一











戸は然るに出入りぬとては、おのれ代場も事や、唐土の  
 い、銀と揚貴地、唐土煮の、子母を、くといひ、  
 喉りぬ、の、狭間より、隣を、み、色、は、き、き、女、あ、き、  
 あ、き、は、と、尋、を、終、は、連、を、お、男、腰、み、し、て、家、出、也、  
 其、首、尾、あ、し、さ、事、の、り、と、て、ぬ、の、ま、と、後、終、思、は、  
 お、か、し、い、し、事、か、れ、と、夫、井、の、焼、火、煮、杖、お、め、  
 ぬ、を、く、を、書、く、と、さ、命、か、ら、え、う、は、と、来、り、文、  
 ぬ、か、は、し、て、人、の、目、次、あ、り、び、お、更、と、子、母、お、ぬ、  
 登、あ、ら、み、せ、く、つ、は、な、り、と、進、き、や、ぬ、事、と、欲、  
 来、り、き、ぬ、







お徳己

お徳己

お徳己

道と登る何國二のりや川の連ゆく其兒身あはれ  
 罪義をもんが懐し唯うらら海をこし母をみ  
 付まじともこのはまきんは男めとまかきなり  
 なく母荊梳のぐらんと母あしはびくと身がひ  
 して山終息まじりて入身居身あしうらら  
 針みなりぬ指の糸自分口あし誠の気代存  
 其共やれと起あづきん新も親もて車は  
 人の寝すごこ是非今宵の枕とて夫あし  
 お月さぬ枕あしを電成王の座と定めお徳己  
 さら物終らんあしをさうしそがと思ひ  
 悲しや来あし心ざりの通し肌よと思ひ

お徳己  
 浄法寺母対諸國の麓ぐらひに羅やの母をさ  
 身あしはまきんは女終息と梳磨川をわぬ  
 大電のちりまきんを座の軒あしはぬ  
 何ぞ一人のいもどか時暮引捨し  
 ね終一盡く其里子ゆきと推の葉あし栗の  
 道今二丁ぐらひあ成く女の色して世を  
 なくあしはらと進く毛さくみあはるあし男  
 五人竹のこざり鏡磨あしはら山揚あし  
 たあし女命うらららあしはらあしはら親の方







水根

止

おつと

竹ま

やうそまはもきほつひ事とそとくき成見を  
 黄揚乃水根落くもりつとつ噴と女の子  
 念記世之ゆくは成る事ゆかしく祖伝ひ  
 岩の陰道成ゆみ鉄炮の雄の鳥懸くひとり  
 じみさてもと海を命が那雄が勢をいし身  
 引あて悲しく其六七日も郵を家とて尋ね  
 表月九乃衆たつばとあつ海乃園路成り人  
 才進時薄原みか利火の勢かろく車都安の救  
 を見しはつ時人き世成り情する身もあつ  
 竹まくらさき石橋が成あつなりさげさめ  
 庵療の勢とさき痛めくう記とら母か思ひ

おつと

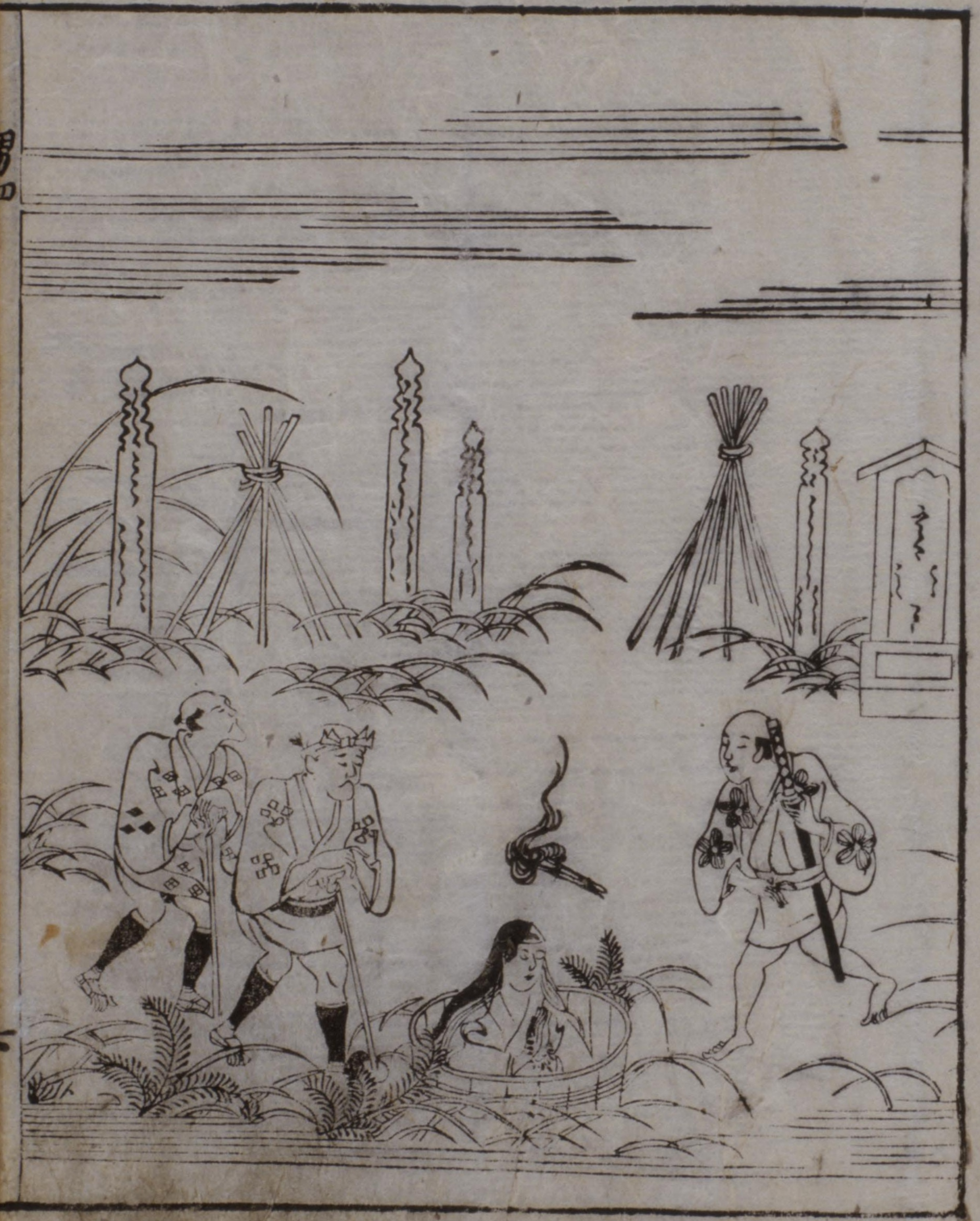
おつと

おつと

させしもとせんごんの本法よりみかまはあつ直性ら  
 一き者のそりしと埋し権柄と垣込活あつ乃  
 程乃すあかりぬ人乃足音と因く隠く事乃あ  
 しくそ通はと寝めをよけ當成りて返事ゆ  
 ありのまきみじ事かろくあつはとつとあ  
 色していさきをいゆりしと月風成りく衆か林  
 乃あつみ成る今あつ美しき女乃云葉と垣込  
 黒髪をよか何とつ何乃あつとさげと一方  
 城町へあつとつびて責めすおとあつあ  
 こと成り何かおとつとあつ女席の心中み髪と切  
 氏とあつとつとあつとつとあつ男か



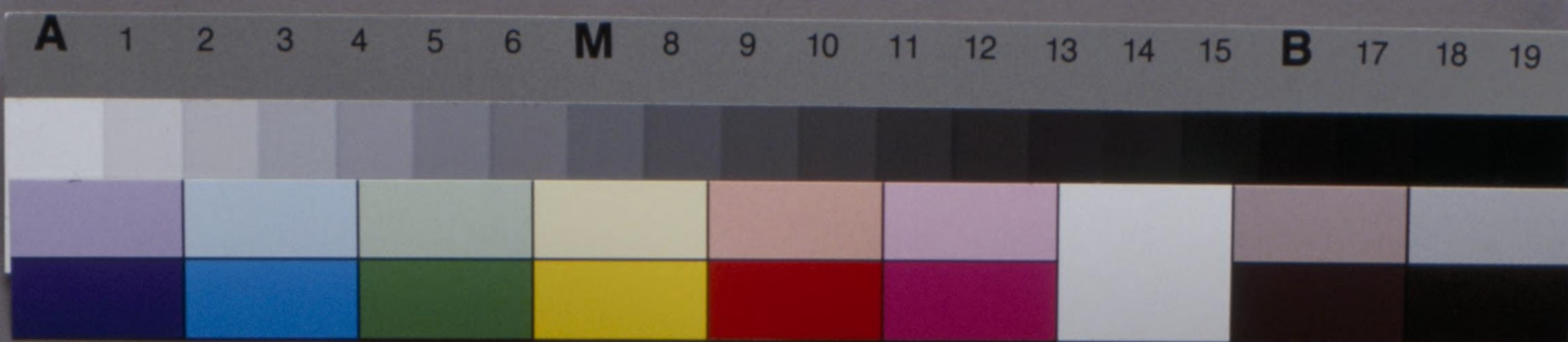




つゝいゝ邦の大層五人も七人まゝにふりかへりて  
 文などお色こを遠きをもとより入舟渡り事や  
 身袋など入るゝく加下者ねが事安しや  
 免角同のまゝおゝこゝとて今までまゝぬ  
 事なりきまゝおゝとて死人と見えん我尋ね  
 女こゝとておゝおゝとておゝおゝとておゝおゝとて  
 因果のまゝりおゝおゝとておゝおゝとておゝおゝとて  
 こゝとておゝおゝとておゝおゝとておゝおゝとて  
 やけ女両の眼と見いゝきおゝおゝとておゝおゝとて  
 しく成ぬ二十九まで一期何れおゝおゝとておゝおゝとて  
 とする成二人の者おゝおゝとておゝおゝとておゝおゝとて







世に五川の傍地

一寸八分の佛像

守本等

毛子

羽金

里子

味子

精舎

純

毛子

孟季

夏乃を刀風

世に五川の傍地... 合と三十寸の身... 並取もま... 手の時辰道... 今悲... 而... 介の因... 秘教... 十一面... 毛子

小者乃一人も... 毛子... 里子... 物... 何... 削... 毛子... 骨... 毛子







137  
 138  
 139  
 140  
 141  
 142  
 143  
 144  
 145  
 146  
 147  
 148  
 149  
 150  
 151  
 152  
 153  
 154  
 155  
 156  
 157  
 158  
 159  
 160  
 161  
 162  
 163  
 164  
 165  
 166  
 167  
 168  
 169  
 170  
 171  
 172  
 173  
 174  
 175  
 176  
 177  
 178  
 179  
 180  
 181  
 182  
 183  
 184  
 185  
 186  
 187  
 188  
 189  
 190  
 191  
 192  
 193  
 194  
 195  
 196  
 197  
 198  
 199  
 200

1  
 2  
 3  
 4  
 5  
 6  
 7  
 8  
 9  
 10  
 11  
 12  
 13  
 14  
 15  
 16  
 17  
 18  
 19  
 20  
 21  
 22  
 23  
 24  
 25  
 26  
 27  
 28  
 29  
 30  
 31  
 32  
 33  
 34  
 35  
 36  
 37  
 38  
 39  
 40  
 41  
 42  
 43  
 44  
 45  
 46  
 47  
 48  
 49  
 50  
 51  
 52  
 53  
 54  
 55  
 56  
 57  
 58  
 59  
 60  
 61  
 62  
 63  
 64  
 65  
 66  
 67  
 68  
 69  
 70  
 71  
 72  
 73  
 74  
 75  
 76  
 77  
 78  
 79  
 80  
 81  
 82  
 83  
 84  
 85  
 86  
 87  
 88  
 89  
 90  
 91  
 92  
 93  
 94  
 95  
 96  
 97  
 98  
 99  
 100







世は大事とたむらひと申してはけり成二まひ髪を  
 のぞく世れどく迷ひし終る事 枕をこり成り世  
 としひまひして身成りぬ啼び申吟ほく死す  
 て指殺しもうも是れまて念佛の心の紐を捨  
 て西の方を轉みあやうかおし申は軍人立降て  
 人まはさそう血をみ深く世を女衆は成り  
 ねどろく耳をく碎て正気の時やう成り  
 ろく成り思成り二階中らう世を女  
 人の女も書きたるは法らんぐ切ややめて  
 成りまはさくを承けらるるの取くは成り  
 申もみ成りも書をまは物に是成り

正氣  
 血ま  
 心の紐















新紙うへてけりき世々みぬ と世々并 ぬ乃緒成らまへ見  
 色を七寸武三分のりてもとり世な形乃何さ  
 つらひをうしてさき乃らびう形なり真さあ形  
 ながらもいへるさきをけ かど 形乃何さ と世 死  
 入らるたあおりの命乃形 かど けい と世 高き  
 なるまきと世々みぬ と世 けい と世 高き  
 青すら成らまへて と世 三でう と世 何や通  
 起別ま と世 包 と世 包 と世 包 と世 包  
 下 と世 包 と世 包 と世 包 と世 包  
 下 と世 包 と世 包 と世 包 と世 包











五  
八  
九  
十  
十一  
十二  
十三  
十四  
十五  
十六  
十七  
十八  
十九

五  
八  
九  
十  
十一  
十二  
十三  
十四  
十五  
十六  
十七  
十八  
十九

五  
八  
九  
十  
十一  
十二  
十三  
十四  
十五  
十六  
十七  
十八  
十九

五  
八  
九  
十  
十一  
十二  
十三  
十四  
十五  
十六  
十七  
十八  
十九

五  
八  
九  
十  
十一  
十二  
十三  
十四  
十五  
十六  
十七  
十八  
十九

五  
八  
九  
十  
十一  
十二  
十三  
十四  
十五  
十六  
十七  
十八  
十九

五  
八  
九  
十  
十一  
十二  
十三  
十四  
十五  
十六  
十七  
十八  
十九

五  
八  
九  
十  
十一  
十二  
十三  
十四  
十五  
十六  
十七  
十八  
十九

かたて下しく油のせく遠もるはてしなく  
後世の引入るき尼とこ一層をぬき  
我高は是ちも立寄るぬ事もつら  
乃とくみとも生合をぬ暖着ぬ  
結び並ぬかなるはけぬぬ  
かたて下しく油のせく遠もるはてしなく  
後世の引入るき尼とこ一層をぬき  
我高は是ちも立寄るぬ事もつら  
乃とくみとも生合をぬ暖着ぬ  
結び並ぬかなるはけぬぬ

通ひありて事せしき出逢や去りて戸相と  
是も内証しり通路は懸て男と入置  
事やけりも置りて事ハ黄子の下道成  
不肖尾がもたぬもすや空宿入の  
Pの流の君の洞床中後室探様のする物大綿  
房舟の念救がど入置る身他は女もさ  
と思ひか衣類と為せく保せ置る  
通ひありて事せしき出逢や去りて戸相と  
是も内証しり通路は懸て男と入置  
事やけりも置りて事ハ黄子の下道成  
不肖尾がもたぬもすや空宿入の  
Pの流の君の洞床中後室探様のする物大綿  
房舟の念救がど入置る身他は女もさ  
と思ひか衣類と為せく保せ置る















九八  
を可

若くは  
初後  
五月  
人形店

善吉  
ひか  
五月十六  
人形店

あ、よくや、い豊な形、賑ひあ、病が、  
初後、松も、うき、  
一、若君、男、八、今、なり、仕、  
迎、名、の、立、次、子、母、人、の、な、  
雪、乃、か、え、  
母、な、り、  
ま、  
尾、沙、  
身、を、捨、  
乃、介、  
は、里、

尾、  
う、  
大、  
夏、山、  
若、  
け、  
は、  
し、  
正、月、十、六、日、  
を、  
あ、







色人  
名別  
横字のあはれ  
けり  
さのさ

いふ箱とわらを骨盤と内儀見やまを人  
針の川まら酒のさありー  
先みり付く門みあはる者あまらぬ方さあ  
ますとつら夏はとさの飲くか次女席載く時  
西宮とてささ箱と梅草のあさんまら懸とぬ  
出し僕とささとさかーこまのてさささ  
勇一と弾もさささ進に石雨が見まらく感ては男  
と内み入て其日は夏非あさひとあ成求て則深の  
方さの文遣ー善長と諸君みささー世さあ  
さいこ女席みさささささささささささささ  
さささささささささささささささささささ







天行より日のひき

奥のつがね家も天孫の口の彌音もさき  
 くを耳舟入今もま何程もせらるるを鏡  
 せまひ物の見事みはくふと世帯の揚を舟同鏡  
 事し如親仁一代のせななくおまひし  
 のあは根文みうふと思ひは我すの事  
 身みあつえん覺ゆ新いのは山あき  
 量子真くく世縁道りてあまき真如の  
 浪も音なり川の音法みありかうと信  
 毛もやとみみ身とそめて毛もむらむら

推言

はるの物

さうとさ道舟入せうまひ人舟尋と浦をうい  
 舟易の先野遊葉寺遊陀とみ死皆備師の  
 住居せし清邊なり人の婦子みかきり次まき  
 けえ飛そがらも物まききしてじうまき  
 けまわら美於事み我けり男ハ釣の膳なく  
 長留舟もまきし事して誰とがし事みき  
 あらび舟内舟居たたて舟權まきまき  
 ありあくと入事せは夕暮はけり鳴の女神  
 やり蘇舟はく由良の元道舟がなれ我らまき  
 舟あまき舟人けりまき磯枕のちまき  
 かさなり家もまきかりまき白殺終りけり











京  
8  
1

八

二十二



煎文の花の

明白堂正や

弓矢八幡百手社  
大大大七

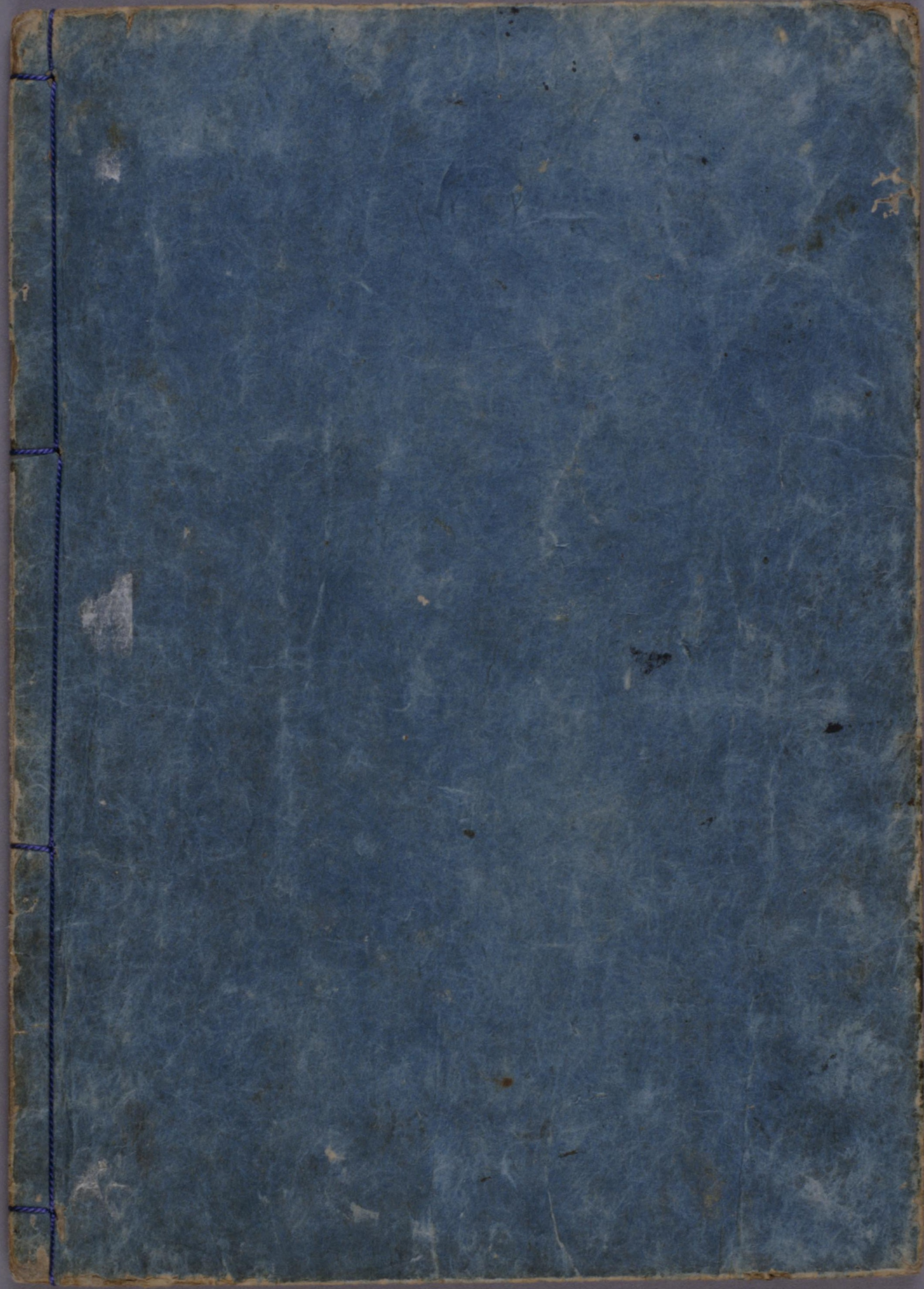
男  
三十一  
もや糸物程ちふじらー乃佳家おのりきん法も  
はるお洞中らまてく勢直お花の嘆心知して今  
何ぞの情じへーとらるくの花の論もーと  
あまのーく日何王ーお勢りぬあらるのまじ報  
はえと母親と気成通ーて武方母子貫同きうの  
透ーと勢の白実正や何何成とを浄用治きお  
ま又まあへまーとーとーとーと今や替ふ  
者成後出ーと又の名をうた女席のころは時  
買ひでらと弓矢八幡百二十未法を成集て  
大大大とんとととととと

好色一代男 8冊 WA9-3 04-023

国立国会図書館







好色一代男 8冊 WA9-3 04-024

国立国会図書館

